



林業福島

No. **666**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

2

2020

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 春 雪 の 彩



森林環境の未来のために

福島県市長会長
相馬市長 立 谷 秀 清

『林業福島』をご覧の皆さまには、県内各地域の林業振興と森林管理に多大なご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

また、昨年十月に発生した台風十九号及びその後の豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、復旧に向けてご尽力されております方々に深く敬意を表します。

さて、皆さま既にご存知のように、昨年三月一日に『森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律』が成立・公布されました。これは温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備に必要な財源を安定的に確保する観点から、国民一人一人が等しく負担を分かち合って森林を支える仕組みとして創設されたものです。「森林環境税」の導入を巡っては、これまで長期にわたり全国の森林組合をはじめ多くの団体が要望活動を行ってきました。そのような中、先進国の温室効果ガスの排出削減目標を定める「京都議定書」の発効や、開発途上国を含むすべての国が参加した新たな国際的枠組みである「パリ協定」の採択、また昨今の山地災害の激甚化等による国民の森林への期待の高まり等を受け、創設するに至りました。森林環境税の徴収は令和六年度から開始されますが、「森林経営管理制度」の導入に合わせて、本年度から県及び市町村へ譲与されています。多くの市町村が管内の人工林の手入れが不足していると認識している状況にある中、安定的な財源が確保されることにより、適切な森林整備が進むよう取り組んでまいります。

さて、いよいよ本年七月に「二〇二〇東京オリンピック・パラリンピック大会」が開幕します。県内では、聖火リレーがJヴィレッジをスタートに三日間で二五市町村を巡り、ソフトボール競技と野球競技が実施されます。また、各国の選手が滞在する選手村内の「ビレッジプラザ」は、全国から応募のあった自治体の木材を使用して建築されており、本県からはいわき市や白河市で伐採された木材が使用されています。国内外の多くの方が福島県の復興状況を直接見て、正しく理解していただくとともに、県産材の普及、PRが図られるチャンスであると考えております。皆様が活躍される林業をはじめ農林水産業や観光産業における風評払しょく、さらに地方創生へつながるよう、福島県市長会としましては県や関係機関と協力しながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、これからもご理解とご協力をお願いいたします。

《も く じ》

とびら

森林環境の未来のために

福島県市長会長 相馬市長 立 谷 秀 清 … 1

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム

「遊ぼう!学ぼう!福島の森と木の親子体験教室」の開催 … 2

林業研究センターだより … 3～4

山火事を防止しましょう

～守りたい 森と未来を 炎から～ … 5

福島県森林環境税による取組 第3回 … 6

第43回全国育樹祭 OKINAWA2019に参加して … 7

普及指導員通信 … 8

福島県林業労働力確保支援センターだより … 9

木連だより … 10

木の文化を育む① … 11

木材市況・ふくしま東西南北 … 12

はなしのひろば・お知らせコーナー … 13

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム

「遊ぼう！ 学ぼう！」
福島の森と木の親子体験教室の開催

(一社)全国林業改良普及協会(事業受託団体)

平成二六年度より継続してきた林野庁の「避難指示解除区域等の林業再生に向けた普及啓発事業」。令和元年度は十二月一日(日)(郡山市)、十二月二一日(土)(東京都港区)において、親子向けのシンポジウムを開催し、福島県内外から関係者を含め三三七名(福島会場一六九名、東京会場一八八名)の参加を得ました。

初めての子どもを対象とした取組のため、企画段階では、果たして参加者を最後まで飽きさせることなく、福島の森の実情と魅力を的確に伝えられるのか等の懸念がありました。が、開催したところ、参加者の満足度も高く、普及啓発事業としては大

きな成果だったと考えています。

当日のプログラムは三部構成で、「学びの部」で放射線の基礎知識と森林内の放射性物質の動態を学び、「体験の部」で木工クラフトとキノコ収穫の二つの体験を通して福島の森林・木・森の恵みの魅力を体感。休憩も兼ねた「遊びの部」では、森のひみつ探検ミニクイズ、木育体験コーナー等で自由に遊べるようにしました。東京会場では、これらに加え、「ふくしまの森で行っていること(福島県)」、「建物に木を使おう(みなとモデル二酸化炭素固定認証制度)(港区)」の取組報告、県産品の販売を実施しました。

シンポジウムを振り返り、「学びの部」では両会場で「放射性物質が付いた物を食べるとどうなる?」、「キノコの種類によって放射線量は変わる?」等、子ども達からの鋭い質問が絶えることなく、理解と関心の高まりが見えました。

シイタケとナメコの収穫体験は、ほとんどの参加者が初めてで、驚きや発見づくしの収穫作業もさることながら、「シイタケが自然と生えることとはあるの?」、「オススメの調理法は?」等、質疑応答のやりとりが大変盛り上がりしました。二つの体験では、子どもだけでなく親も参加して皆が楽しめ、また、体験したことで知識が自分事として捉えられたことがアンケートからも分かりました。東京会場のアンケートで、実際の行動や応援に繋がるコメントが多くあったので、いくつかご紹介いたします。「またやりたい/森が楽しそう/福島にきのこ狩りに行きたい(子)」、「夏休みにあたらのキャンプ場を予約したい/まだ不安に思うことが

あったけど、今日を機会にもっと福島に出かけてみたくなった(親)」。

今年六年目になる本事業ですが、これまでは林業関係者の参加が多く、一般市民への普及啓発が課題でした。あわせて、「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略(復興庁)」の中で、伝えるべき対象として「児童生徒及び教師等教育関係者」が一番上に挙げられていますように、次世代を担う子ども達とその保護者に、福島の実情、森のことを伝える機会を作り、理解者・応援団を増やしていくことは、今後も重要な課題になるものです。

終わりに、台風十九号の被害復旧等大変な中、参加して下さった方々やお力添えをいただいた方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。特に、後援の郡山市、共催の港区には会場スタッフを担当いただいたほか市区内の全小学校に告知チラシを配付していただいたことで多くの市民の方に周知することができました。本当にありがとうございます。



会場内の放射線が見えた時、予想以上に盛り上がった霧箱実験



実験を入れ、参加型とすることで関心と理解度アップ(サーベイメータでの葉等の線量測定実験)



大好評の木育体験・木のおもちゃ



ボケとツッコミのような絶妙な掛け合いも魅力のキノコ講師陣



大人も子どもも楽しい収穫



熱中したオーナメントづくり



最後は「森のことをもっと知りたい場合、例えば県民の森フォレストパークあだたらでは、こんなことができます」で締め

林業研究センターだより
**緑枝挿しによる
 貴重なサクラの増殖について**



エドヒガン

福島県林業研究センター
 森林環境部 齋藤直彦

●はじめに

林業研究センターでは、今年度より研究課題「広葉樹の増殖に関する研究（期間：令和元～五年度）」の取組を開始し、県内の香料や薬用等で利用可能な有用広葉樹や、名木、巨木、緑の文化財等の古くから地域住民に親しまれてきた貴重な広葉樹の増殖方法を検討しています。貴重な広葉樹の中でもサクラは、日本人の最も好む木の一つとも言われ、地域のシンボルや観光資源となっているものも数多く、後継樹の増殖需要が大きい種類と言えますが、今回、要望のあった貴重なサクラ四種（三系統）について「緑枝挿し」の方法による増殖を試みました。

「緑枝挿し」とは、当年の春より新たに伸ばした枝（当年枝）を挿し穂とし、主に六～七月頃に挿し木する増殖方法で「夏挿し」とも呼ばれています。三月頃に実施する「春挿し」とともに母樹の形質をそのまま受け継ぐ単独個体を比較的簡単な操作により獲得することができるとは、反面、母樹の年齢が高い場合等に発根が悪いことが指摘されてきましたが、当センターにおける研究課題「希少樹種を含む樹木の遺伝資源の保存に関する研究（平成十一～十五年実施）」では、挿し付け時に空中湿度を高く保持する方法を用いた緑枝挿しにより、老齢のサクラの挿し穂で高い発根率を得たと報告しています。今回は、この方法をベースに、近年の予備試験等で得たデータを加えた現在最も成功の可能性が高いと思われる緑枝

挿し手法により貴重なサクラの増殖を試み、同時に林業研究センターで生育している、比較的樹齢の若いサクラで実施した緑枝挿しによる発根率と挿し穂の形状（穂長、基部径）との関係等について紹介します。

●試験方法

今回、挿し木試験を行ったサクラの母樹・名称と挿し付け時の穂長、基部径の平均値を表1に示します。表中の系統は、数百の品種が存在すると言われるサクラ（サクラ属）を便宜的にグループ分けしたもので、このうちソメイヨシは、エドヒガン×オオシマザクラの交雑種とされエドヒガン群（亜属）とされることが一般的となっていますが、ここではソメイヨシ×オクチョウジザクラの交雑種とされるモニワザクラと同一グループに分類しました。また、サトザクラは、オオシマザクラを基に他の樹種等と交配させるなどして選抜された品種群の総称とされる大きな分類群です。当試験で、穂長が大きかったものは、ソメイヨシノ1、サトザクラの「はるか」、貴重なサクラであるシダレザクラ2などで、系統よりも個々の母樹による違いが大きかったのですが、基部径は、ヤマザクラの系統、サトザクラ

で大きくなっていました。今回行った緑枝挿しは、①空中湿度を高く保持するため、ビニールハウス内にビニールシートで覆った小ハウスを設置し、内部に挿し床（土は鹿沼土小粒）を設置する。②穂木は、当年枝を途中で切らずに一本ま

表1 令和元年度サクラ緑枝挿し試験材料

系統	母樹・名称	挿木本数	穂長平均(cm)	基部径平均(mm)	備考
エドヒガン	エドヒガン1	48	5.88	1.62	樹齢約20年生
	エドヒガン2	22	5.94	1.60	緑の文化財、樹齢750年
	シダレザクラ1	50	6.16	1.47	樹齢約50年生
	シダレザクラ2	30	12.77	1.95	緑の文化財、樹齢450年
ソメイヨシノ	ソメイヨシノ1	46	13.14	1.88	樹齢約50年
	モニワザクラ1	15	8.41	1.97	樹齢約20年
ヤマザクラ	ヤマザクラ1	42	6.41	2.11	樹齢約20年
	オオヤマザクラ1	20	3.64	2.57	樹齢約20年
	オオヤマザクラ2	32	5.62	2.13	地域の記念木、樹齢不明
サトザクラ	はるか①	48	16.92	3.03	樹齢8年
	はるか②	63	18.69	3.00	同上の母樹、挿し時期異なる
	紅豊1	51	6.60	2.97	樹齢約20年
	サトザクラ4	13	4.70	2.40	緑の文化財、樹齢1100年
合計	—	480	9.88	2.26	

注) 太字は貴重なサクラ

るごと使用し、穂長に合わせて二五枚の葉を残す（以前、よくされていた葉の途中でのカットはしない）。③基部は、斜めに一センチ程度切り下ろし、五ミリ程度の切り返しをつける。④発根促進剤インドール酪酸四倍希釈液に二〇秒浸漬し、直ちに穂長の三分の一程度の深さで挿し付ける。⑤挿し付け後は、ミスト散水三回／日で養生し、日中、高温（気温二七℃を目安とした）になれば、内側の小ハウスのビニールシートを少し開け温度調節を行う、というもので（図一）、挿し付けは令和元年六月七日～二十五日に行いました。



図一 緑枝挿しの状況

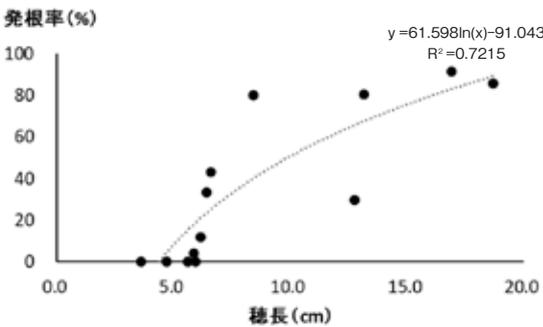
●結果と考察

緑枝挿し結果を表一に示します。結果については、令和元年九月六日に穂木を掘りとり、その時点で発根し生存しているものを「発根」としてカウントしています。発根後、枯死したものは確認されませんでした。挿し木本数合計四八〇本のうち

二〇〇本が発根（発根率四二割）しましたが、発根率は母樹によって大きく違い、ソメイヨシノ1、モニワザクラ1、サトザクラ「はるか」で八〇割以上の高い発根率だったのに対し、貴重なサクラ三種とセンター内のオオヤマザクラ1では発根が見

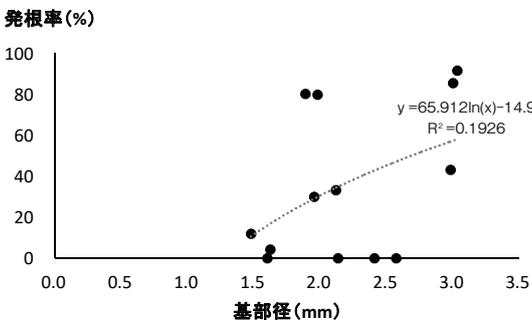
表一 令和元年度緑枝挿し試験結果

系統	母樹・名称	挿木実施日	挿木本数	発根本数	発根率(%)
エドヒガン	エドヒガン1	6月10日	48	2	4.2
	エドヒガン2	6月14日	22	0	0.0
	シダレザクラ1	6月13日	50	6	12.0
	シダレザクラ2	6月14日	30	9	30.0
ソメイヨシノ	ソメイヨシノ1	6月13日	46	37	80.4
	モニワザクラ1	6月17日	15	12	80.0
ヤマザクラ	ヤマザクラ1	6月18日	42	14	33.3
	オオヤマザクラ1	6月20日	20	0	0.0
	オオヤマザクラ2	6月25日	32	0	0.0
サトザクラ	はるか①	6月7日	48	44	91.7
	はるか②	6月21日	63	54	85.7
	紅豊1	6月20日	51	22	43.1
	サトザクラ4	6月25日	13	0	0.0
合計	—	—	480	200	41.7



図二 母樹の穂長と発根率について

られませんでした。オオヤマザクラは樹種として発根率が〇割であり、この方法による増殖が困難と考えられ、またエドヒガンの系統も発根率が一割（一五〇本中一七本発根）と低く、挿し木が難しいグループだと言えそうです。母樹別の穂長・基部径と発根率の比較（図一、二、三）では、穂長の平均値が大きい母樹で発根率が高い傾向が認められましたが、基部径の平均とその発根率では関係性は認められませんでした。また、穂長平均六センチ以下のものは発根率が〇～四割と低く、これらから、サクラの緑枝挿しによる増殖の可否を母樹の状態により検討する際、穂長（当年枝の長さ）が判断材料としては有効で、長さ六センチが目安となる可



図三 母樹の基部径と発根率について

●おわりに

今回の緑枝挿し試験では、貴重なサクラ三種の発根がありませんでしたが、今後も挿し木、接ぎ木、取り木等の様々な方法で検討し、後継樹確保を目指す予定です。また、林業研究センターでは、当課題において引き続き、貴重な広葉樹の増殖方法の検討と精度向上を図っていきますので、各市町村、地域でサクラ等の後継樹増殖等の要望がありましたら情報提供をお願いします。

の検討と精度向上を図っていきま

山火事を防止しましょう

守りたい 森と未来を 炎から

福島県森林保全課

○山火事の発生時期

冬から春先にかけては、雨が少なく空気が乾燥していることに加え季節風も強いことから、火災発生の危険が高まる時期となります。暖かくなる春は登山やハイキングなどでの山に入る機会が増えるほか、農作業を始める時期とも重なり、例年、田畑や自宅の周辺などでの火の使用が原因の山火事が多発しています。また、炎が燃え広がりやすい時期であるため、初期対応が遅れると大規模な山火事に発展する恐れがあります。

○山火事の発生原因

全国で平成三〇年に発生した山火事(林野火災)は一、三六三件であり、その原因で最も多いのは「たき火」四二八件、次に「火入れ」二五八件となっております。※1 当県においても平成三〇年は、二九件の山火事が発生しております。※2

このことは、山火事の発生原因の多くが人為的な不注意によるものであることを意味しており、一人ひとりの注意をすることで多くの山火事を防ぐことができます。

○山火事を発生させた場合の責任

森林法では、森林に放火をした者に対してだけでなく、失火により森林を延焼させた者に対しても罰則規定があります。

山火事を発生させてしまうことは大変重大なことからそうならないよう、火の取扱いに注意することを心がけましょう。

○山火事を発見したら

山火事の消火活動は、市街地の火災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であり、自力での消火は大変危険です。

山火事が発生した場合や、山火事を発見した場合は、すぐに消防署へ

通報するようお願いいたします。

○山火事を発生させないために

山火事を発生させないためにも、私たち一人ひとりが次のことに注意をして、山火事予防に取り組みましょう。

- ① 枯れ草がある等火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと。
- ② 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
- ③ やむを得ず火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。
- ④ 火入れを行う際、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。
- ⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てをしないこと。
- ⑥ 火遊びはしないこと。

○おわりに

どんなに小さな火でも燃え広がれば大きな森林も破壊してしまいます。私たちの暮らしに欠かせない水源かん養や県土の保全など森林の持つ大切な役割を失ってしまうことになり、燃えてしまった森林がもとの姿に回復するまでには、何十年もの月日と多大な費用を要します。

ふくしまの豊かな森林から山火事を発生させないよう県民の皆さん一人ひとりのご協力をお願いします。

※1 総務省消防庁公表資料(令和元年九月六日付け)より

※2 農林水産部 森林保全課の集計より

森林保険

山火事などの災害に備え、森林保険に加入しましょう。くわしくは、最寄りの森林組合、または森林組合連合会へご相談下さい。



森林保険イメージキャラクター マモルくん

福島県森林環境税による取組 第3回 ～第3期における特徴的な取組～

福島県農林水産部森林計画課

1 はじめに

福島県森林環境税の第3期課税期間は、平成28年度から令和2年度までの5年間で、現在、4年目の取組が行われています。今回は、第3期のこれまでの特徴と代表的な取組について紹介します。

第3期のこれまでの特徴は、「森林と人との絆の回復」に向けた取組への支援が大きな割合を占めていることです。人々の生活に森林が密接に関わらなくなったことで荒廃した姿が見られる里山林の整備や、海岸防災林の復旧をはじめ、森林づくりフィールドなどの森林環境の回復を受けた森林づくりへの意識醸成活動の推進などに森林環境税が活用されています。

また、市町村が行う森林づくり等の推進は、第2期までに比べ、より地域の特色を織り込んだ取組となっています。

2 里山林整備事業

森林環境税を活用した取組による7つの施策分野の中で最も大きな割合を占める施策は「森林環境の適正な保全」であり、中心となる事業が「森林整備事業」（本誌No.665. 1月号参照）です。この事業では、水源区域など生活に密接な関係をもつ森林の整備を実施してきました。

第3期は、この施策分野の中に新たに「里山林整備事業」が導入されました。居住地域に近い里山林を対象とし、野生動物の生息域との間の緩衝帯の整備などを支援するこの事業は、人間が森林に入り込まなくなったことにより生じた新たな問題に対する事業として、現代の森林・林業の課題の解決に向けた事業であり、第3期を特徴づける事業です。

この事業では、平成28年から30年までの3ヶ年で24市町村、のべ107団体の里山林に関する活動を支援しました。各団体の具体的な実施内容で最も多かったのは、里山林の維持管理方法や野生動物への対策を学ぶ等の森林づくり意識醸成に向けた取組で、次いで人々の生活圏と野生動物の生息地との緩衝帯整備となっており、地域住民による取組を直接支援しています。イノシシの分布拡大やツキノワグマの人的被害が発生した南会津地方では、農業分野の他事業による電気柵の設置とともに実施され効果を発揮しています。



写真-1 里山林整備事業

3 全国植樹祭の開催と理念継承

平成30年6月に、上皇皇后陛下のご臨席を賜り開催された第69回全国植樹祭は記憶に新しいところです。第3期の二つ目の特徴は、大震災と原発事故で大きな被害を受けた本県において、より一層の県民参画による森林づくり活動を推進する取組です。全国植樹祭の開催理念を継承する「ふくしま植樹祭ABMORI」をはじめ、未来につながる森林づくりなどが広く展開されています。



写真-2 会津桐の学習（三島町）

4 地域色豊かな市町村による取組

森林環境交付金による市町村が行う森林づくり等の推進については、前回（本誌No.665. 1月号参照）も紹介しましたが、第3期は、さらに地域色豊かなバラエティーに富んだ事業が展開されています。（表-1）

[表-1 市町村による取組事例]

事業名・テーマなど（市町村名）	取組内容
木育推進事業（国見町）	「ウッドスタート宣言」により暮らしに木を取り入れる取組を実施。
森林環境講座（郡山市）	児童・保護者を対象にした森林講座「こおりやまフォレストキッズクラブ」や、森林環境問題を学ぶ「富良野自然塾in郡山」の開催。
金沢地域里山再生プロジェクト（矢祭町）	地域住民が主体となり、手入れ不足の森林伐採と花木等の植栽、遊歩道の設置と管理、自然観察や記念植樹祭等の森林イベント開催を継続。
会津桐の学習（三島町）	児童生徒による桐苗の植栽や植栽地の管理作業の実施、桐材を使ったものづくりの体験をとおして、植栽から木材利用までを学習する。
ヤマザクラ1万本の里づくり（南会津町）	町内各地に地域住民の手によりヤマザクラを植栽。町全体がヤマザクラにあふれた地域を形成。
木工教室（南相馬市）	応急仮設住宅避難者が参加し木工教室を開催。「森林と人との絆の回復」を目指した被災地での取組。
どんぐりプロジェクト（葛尾村）	震災後7年ぶりに再開した学校で、復興のシンボルとなる木を植樹し、地域社会と学校が一体となって村の未来を創造していく取組。
木質バイオマスの利活用（いわき市）	市の公共施設に木質ペレットストーブを導入し、市内で生産されたペレットを使用することで再生可能エネルギーによる循環型社会に貢献する。

5 おわりに

森林環境税を財源とする取組は、「森林環境の保全」と「森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成」という二つの大きな目標の実現に向かって進みながら、森林・林業を取り巻く環境の変化により、時代を反映した特徴のあるものとなってきました。

県民の皆様の要望に応え、支持されてきました森林環境税は、令和2年度が第3期の最終年度となります。

今後も、豊かな森林を守り育て、健全な状態で次の世代へ引き継いでいくため、「豊かな森林文化のくに・ふくしまの創造」の実現を目指していきますので、皆様のご意見、ご要望などいただけますようお願いいたします。

第四三回全国育樹祭 OKINAWA二〇一九に参加して

福島県農林種苗農業協同組合 加藤 正 昭

第四三回全国育樹祭は、令和元年十二月十四日、十五日に秋篠宮皇嗣殿下、妃殿下の臨席のもと、全国から二、〇〇〇人を超える林業関係者などが参加して「うけつごう豊かな森とみんなの笑顔」をテーマに沖縄県で開催され、本県からは十名が参加しました。全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、昭和五二年から、全国植樹祭を開催したところある都道府県において毎年開催されています。

「お手入れ行事」は、十四日に沖縄県糸満市「沖縄県平和創造の森公園」において、秋篠宮皇嗣殿下が沖縄の県木である「リュウキュウマツ」の枝打ちを、同妃殿下が施肥を行いました。

「記念式典」は、十五日に沖縄県宜野湾市「沖縄コンベンションセンター」で行われ、プロローグ、式典、

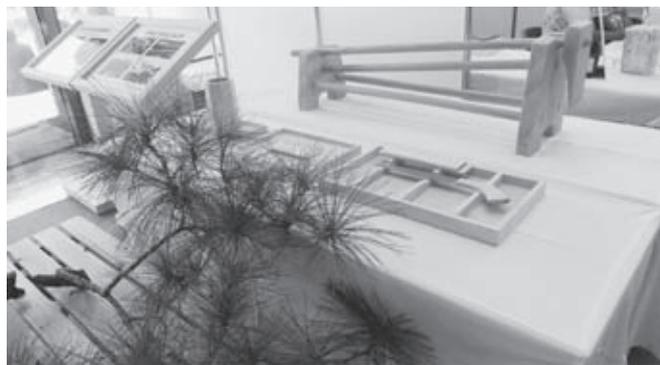
エピローグで構成され、琉球文化あふれる演出でした。プロローグでは、琉球舞踊、琉球太鼓、獅子舞に続き、十四日に行われた「お手入れ行事」が映像で紹介されました。なお、そのときに使われた道具や枝打ちされた枝は「おもてなしエリア」に展示されていました。

式典では、

開会のことば、主催者あいさつ、歓迎のことばに続き、秋篠宮皇嗣殿下が「豊かな森を後世へと引き継いでいくことは、地球上に暮らす生き物たちにとって



「記念式典」でおことばを述べる秋篠宮皇嗣殿下



「お手入れ行事」で使われた道具、枝打ちされたリュウキュウマツ



「記念式典」会場の様子

大変重要なこと」と、お言葉述べられました。続いて、長年にわたって緑化活動等に取り組んできた個人、団体に対して緑化功労者表彰、地下小緑の少年団による活動が発表されました。

エピローグでは、沖縄空手の演武とエイサー、参加者全員によるカチャーシー大団円により閉会となりました。

令和元年十月三十一日早朝、驚くべきニュース映像が目に飛び込んできました。世界遺産の首里城の火災です。琉球文化の中心であった首里城

を失った沖縄県民の悲しみと復興への誓いを式典等を通じて痛感し、一日も早い再建を願いました。また、戦争で荒廃した山原（ヤンバル）の森を、七〇年の月日をかけて緑豊かな森へと復興した沖縄県民の想いと、「イスノキ」や「イジュ」などの広葉樹が構造成材用として造林されていることや、福島では観葉植物としてしか見たことのない「ガジュマル」の大木や「ハイビスカス」の花が屋外で咲いていることなど、沖縄県の文化や気候を改めて認識した全国育樹祭でした。

県民参画の^もり 森林づくりに向けた 人づくり・心づくりの取組について

福島県県南農林事務所

林業普及指導員 江村 健

1 はじめに

地域の生活に密着し、また地球温暖化防止等の様々な公益的機能を有する森林を守り育て、未来へ引き継いでいくためには、県民一人一人が森林に関心を持ち、森林・林業とのふれあいや木材利用といった様々な形での「森林づくり」への参画につながるような、人づくり・心づくりの取組が求められます。

このような中、県南農林管内では、東白川郡内の小学生を対象に、自然とのふれあい等を目的として、毎年、東白川地方公民館連絡協議会と県南地方林業協会、県南農林事務所が連携し、「夏休み森林教室」を開催しています。

今年度は、塙町を会場として「夏休み森林教室IN塙 森と遊ぼう」を開催しましたので、その取組について紹介します。

2 当日の活動

今年度の夏休み森林教室は、令和元年8月7日(水)に、塙町の湯遊ランドはなわオートキャンプ場を会場として開催し、80名の小学生が参加しました。

また、白河、光南、修明、塙工業高校から合計31名の高校生がボランティアとして小学生の活動補助にご協力いただきました。

参加者は、開会式、オリエンテーションの後、当事務所の職員の他、棚倉森林管理署と東白川郡森林組合の職員を指導者とした班に分かれ、森林散策とクラフト体験を行いました。

森林散策では、会場周辺の森林内において、1周約40分のコースをゆっくり歩きながら、森林内に生えている樹木を題材にした「森のクイズ」や、コースの途中には、森林の木を利用した「ターザンロープ」「ブランコ」「スラックライン(綱渡り)」、丸太を輪切りにした円盤をピンに向かって投げて近づいた距離を競う「木のニアピンゲーム」の活動を設定し、子どもたちは森林の働きなどを学習しながら、様々な形での木や森林とのふれあいを楽しそうに取り組んでいました。

また、クラフト体験では、小枝やビーズを使った木製ドアプレートづくりを行いました。

このドアプレートの材料には、地元塙町の久慈川の堤防に生えているサクラの剪定枝を用い、子どもたちは時間いっぱいまで工夫を凝らしたドアプレートを作成し、身近な木を利用して作品が製作できることや木の重要性を感じながら楽しんでいました。



森林散策

3 おわりに

当日は夏らしい快晴となり、熱中症対策の準備をして臨み、特に病気やけが等もなく、予定どおりにすべての活動を終えることができました。

夏休み森林教室で設定した一つ一つの活動はどれも単純なものばかりですが、インターネットやスマートフォンといったものに囲まれて生活している現代の子どもたちでも元気いっぱいに楽しんでいる様子を見て、森林の内外で体を使った様々な体験活動を行ってもらうことで、森林内の涼しさや、木や木材の感触などを肌で感じてもらうことの重要性を改めて感じました。

この森林教室は、来年度は棚倉町で開催する予定です。

森林とふれ合う機会を提供し、楽しみながら森林の大切さや役割を理解してもらえるよう、活動プログラムを充実させて開催したいと考えています。



ブランコ

福島県林業労働力確保支援センターだより 林業就業者・基幹的な就業者の 定着促進、専門知識・技能向上へ 各種研修会を開催しました



森林づくり研修会 先進事例に耳を傾けました

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センターでは、林業の持続的かつ健全な発展のため、事業体の雇用管理改善や林業の担い手確保・育成等のための各種事業を行っています。
ここでは、今年度後半に取り組んだ主な研修について紹介します。

◎雇用管理研修会・雇用管理改善相談会

雇用環境の改善と林業事業体の体質強化を支援するため、主に林業事業体を対象として令和元年八月九日、郡山市のビッグパレットふくしまにて開催しました。



雇用管理改善相談会の様子



雇用管理研修会の様子

◎雇用管理研修会

第一部は、講師として厚生労働省 福島労働局職業安定部職業対策課の小比田直美氏を迎えて「最近の雇用失業情勢・厚労省の雇用改善の取り組み」と題してご講演いただきました。第二部は、講師として特定社会保険労務士・労働安全コンサルタント・中小企業診断士等でご活躍されている「田部事務所」代表の田部良夫氏を迎えて「林業における『働き方改革』の具体的対応」と題してご講演いただきました。

◎雇用管理改善相談会

「雇用管理研修会」の終了後、事前に申し込みのあった三事業体を対象に実施しました。
それぞれの事業体が抱える雇用管理等の相談について、社会保険労務士の田部良夫氏及び林業支援アドバイザー二名が応じ、今後の対応等について検討しました。

◎林業労働者等研修事業

林業事業体等の現場責任者等への持続可能な林業経営に必要な知識と技術を付与するための研修として「森林作業道作設研修」を行いました。
研修は、効率的な素材生産システムの基盤である丈夫で簡易な森林作業道を作設するための初級研修と、更なる知識・技術の向上を図るためのフォローアップ研修からなり、初級研修は八名、フォローアップ研修は五名の計十三名の方が修了されました。

令和元年十月十五日から十八日の四日間の日程で、いわき市にて開催しました。現地研修は、いわき市田人町内の私有林をお借りして行いました。

【初級研修】

初日午前は室内研修、午後は現地踏査及び支柱木の伐倒等を行いました。二日目以降はバックホウを使用したの基本土工を学びました。



作業道初級研修 バックホウによる実習



作業道フォローアップ研修 丸太組工の実習

【フォローアップ研修】

月十日から十三日の四日間の日程で、関東森林管理局磐城森林管理署にご協力いただき、田人町内の国有林をお借りして行いました。
初日午前は室内研修、午後は現地踏査及びバックホウを使用したの作設実習を行いました。二日目以降は急傾斜地での応用土工に加えて丸太組工を行いました。最終日には参加者による意見交換等を行いました。

◎林業就業者キャリア形成支援事業

林業就業者の定着を促進するためキャリア形成に必要な知識を習得するための研修会として、令和元年十二月三日に、郡山市のビッグパレットふくしまにて「森林（もり）づくり研修会」を開催しました。

今年度は、講師として宮崎県のNPO法人ひむか維森の会より藤掛一郎氏、松岡明彦氏、山下史洋氏を迎えて「林業事業体は持続可能な森林・林業の実現にどう取り組むべきか」と題してご講演いただきました。また、県内の事例発表としていわき市森林組合よりお話いただきました。参加者は五二名でした。

◎終わりに

今後も様々な研修等を予定しておりますので、ぜひご活用をお願いします。

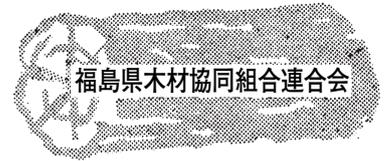
団体のページ

木連だより

「WOODコレクション
(モクコレ) 令和元年」
で県産JAS認証材を
PR

十二月十日・十一日に開催された「WOODコレクション(モクコレ)令和元年」において県産JAS認証材を展示しPRを行いました。モクコレとは、全国四一都道府県の木材業者が一堂に会し各地の国産材を活用した建材や家具などの木材製品の展示商談会で、今回が五回目、県木連としては四回目の出展となります。

今回は、組合員を中心としたJAS認証工場各社が、それぞれ得意分野を持ち、福島県の豊富な森林資源を背景に優れた技術によりJAS認証材を供給できることをアピールするため、全国の建築会社・工務店・建材メーカー・自治体・建築事務所等を商談・連携対象とし展示・PRを行いました。



展示ブースには、林野庁長官・林野庁木材利用課長のご両名にお越しいただいたほか、駅舎等に福島県産材の利用も検討している東日本旅客鉄道株式会社東京工務事務所様、埼玉県の自治体から森林環境与税導入に伴い幼稚園施設への木製家具の整備を任されているNPO法人様など多くの方々との情報交換を行いました。さらに、製材品ばかりでなく木材チップ原料や家具の原材料調達に関するの相談もいただくなど、幅広い情報発信ができました。

福島県からは県木連のほか、協和木材(株)・江戸川ウッドテック(株)・光大産業・田村森林組合が出展しました。



オープニング



躯体の展示



情報交換と情報発信



木の文化を育む^⑪

子育て中の「あったらいいな」を実現 (NPO法人Lotus)

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

特定非営利活動法人Lotus (会津若松市) は、働くお母さんの仕事と子育てを助けたいという思いから、理事長 山口巴さんが設立したNPO法人です。山口さんは生後三カ月〜二歳対象の『ロータス保育園』(認可保育園)、生後五〇日〜学童対象の『ロータスキッズ保育園』(認可外保育園)をはじめ、屋内遊び場の『木育広場もくれん』や『出張おもちゃ広場』、ものづくりカフェ『Lotus Wood Village』など、子育て中の数々の「あったらいいな」を実現してきました。

○木育広場もくれん

東日本大震災の後、山口さんは季節や天候に関係なく、いつでも気軽に木のぬくもりを感じ、五感を刺激し、大人も童心に返って親子で楽しめる施設をつくりたいという想いで『木育広場もくれん』をつくりました。乳幼児期だからこそ五感への刺激は大切である、という考えから、同施設では生活の中に温もり



ある木を取り入れる「木育子育て」を推進しています。季節や天候に左右されず、土日祝日も利用できることから、子育て中のご家族に好評で、大人から子どもまで楽しめる施設として、選りすぐりの木製玩具や遊具を揃えています。NPO法人Lotusでは木製玩具のデザインも手掛けており、オリジナルの木製玩具はここでしか手に入れることができませぬ。乳幼児から高齢者まで指先の刺激に効果的な玩具など、約三〇〇種類以上の木製玩具を揃えており、玩具は定期的に入れ替わります。同施設のスタッフは、保育士、幼稚園教諭の他、おもちゃインストラクター、おもちゃコンサルタントなどの資格を有しており、育児相談やおもちゃ選び、遊び方の相談をすることもできます。

○もくれんキャラバン(出張遊び場)

山口さんは、「すべての子ども達に心の栄養を」をコンセプトに、震災孤児・遺児や施設で過ごす子ども達に、おもちゃ広場空間を提供し、

温かみのある木の玩具を贈る活動、ロータスプロジェクトを株式会社ロータスコンセプト(石川県金沢市)と共同ですすめています。

学校やイベント、施設に、もくれんキャラバン隊が出向き、木のおもちゃ広場空間を提供することで、『木育広場もくれん』へ遊びに行くことができないう子ども達も、木の玩具の温かさや楽しさを体感する機会が得られます。『もくれんキャラバン』では、自然を活かした自分だけのおもちゃを手作りすることができ、ワークショップなども催しており、盛況を得ています。

○Lotus Wood Village

世代を超えて人が集う「まちの駅ロータス村」は木の香りが漂うウッドカフェです。常時三〇種類以上並ぶものづくりメニューがあり、お茶をしながらゆったりと、ものづくりやボードゲームが楽しめる集いの場となっています。

○まとめ

「あったらいいな」が実現したことで、子育て環境の充実のみならず、人々の心の拠り所ができたのではないのでしょうか。地域や子育ての情報交換、世代を超えた繋がりを求めて、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



もくれんキャラバン



木育広場もくれん



素材の価格〈工場着価格〉(2019年11月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均			
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差		
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	11 (10~13)	1	(0~0)		9 (9~9)		11 (9~13)	1	
		10~14		並	スギ	13 (13~14)	1	(0~0)		12 (11~13)		13 (11~14)	1	
	中	14~22	3.00	並	スギ	13 (10~16)	1	13 (13~13)		13 (12~14)	1	13 (10~16)	1	
				並	ヒノキ	19 (16~22)		(0~0)		15 (14~16)		17 (14~22)		
		6.00	並	スギ	16 (15~17)		10 (10~10)		18 (17~18)		16 (10~18)			
			並	ヒノキ	30 (25~35)		(0~0)		23 (20~25)		26 (20~35)			
			20~28	3.65	並	スギ	13 (12~13)	1	11 (10~12)		13 (12~13)	1	12 (10~13)	
				4.00	並	スギ	12 (11~13)		11 (11~11)		13 (12~13)	1	12 (11~13)	
			並	アカマツ	10 (8~12)	1	(0~0)		10 (9~10)		10 (8~12)	1		
			1.80	並	アカマツ	8 (5~11)		(0~0)		8 (8~9)		8 (5~11)		
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		30 (30~30)		30 (30~30)		
				並	米マツ	(0~0)		30 (30~30)		28 (28~28)		29 (28~30)		
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)			
			並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)			
			並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)		25 (25~25)			
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)		(0~0)		7 (7~7)		7 (7~7)			
			並	広葉樹	10 (10~10)		(0~0)		(0~0)		10 (10~10)			

十月の原木市場への入荷量は、前月比二七割増(前年比一割減)の二四、四九四立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比二二割増(前年比五割減)の二三、五六八立方メートルとなっている。
 台風十九号の影響により出材は例年に比べて減少しており、品薄感から相場は強含みとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	
	13~14		並	カラマツ	12 (11~12)		8 (7~9)	
	16以上		並	カラマツ	14 (13~14)		10 (9~10)	

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

日本一の桐材と呼ばれる会津桐は三島町を中心に育てられています。昨年、三島町で栽培技術が地域に根付く「桐の里」をつくるため、「桐の育て方勉強会」が開催されました。今回は、私がこの勉強会に参加し育ててきた桐苗について紹介したいと思います。



桐の育て方勉強会に参加して

会津農林事務所 室井 佳奈子

三種類のポットを持ち帰って職場の窓際で底面灌水をしながら経過を観察しました。

播種から一ヶ月経過した頃、ポットの一つが発芽しました。残り二つは中々芽吹かなかったため、半ば諦めつつ灌水を続けていたところ、七月中旬になりようやくもう一つのポットで発芽を確認しました。これには大変驚きました。

ポット底から根が出るようになってから二〇センチポットに植替え、より日当たりの良い南向きの自宅ベランダに移動しました。

液肥を与えたところとても育ちが良く、草丈・葉は三〇センチ程に大きくなりました。ここまではそれほど手間がかからず育てることができました。



左：チョウセンギリ 右：ニホンギリ

現在は落葉して越冬中で、今年は雪が少なく乾燥しやすいため無事春先に芽吹いてくれるかわかりませんが引き続き成長を見守り、今年植えて、いつか立派な桐材として活用できたらと考えています。

はなしの
ひろば

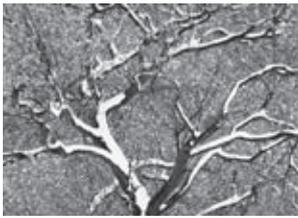
日記

暖冬といえども「立春」の声を聞くと、まだまだ行きつ戻りつの春だが、時おり風と光に柔らかさを感じることがある。春の風を表現する言葉に「こころあいの風」がある。どういう風なのだろう…。おそらく（風が柔らかくなってきた）と思ったその時、季節を伝える風の心とそれぞれの心が通じ合った瞬間の風をそう呼ぶのかも知れない。

そんなふうにも、今感じたことを日記に記していこうと思いつつ。毎日々ひとつの思いの点が、年の暮れには一本の線になるだろうと閃いた。が、宿題以外このかた日記を書いたことがない。まずは日記帳を、それも二〇二四年まで書ける五年ものを買った。表紙をめくると五年分のカレンダー。思わず溜息がでる数字の羅列。ゴールデンウィークや祝日ばかりが気になるが、このページが全て埋め尽くされるのは壮観だろう、などと、白紙のままなのに早くも五年後に思いを馳せる。

ところで、日記というと、一九八二年一月に放送された「続夢千代日記」が思い出される。死を宣告された原爆症の芸者夢千代（吉永小百合）が最後に「春になれば 春になれば 春になれば」と繰り返すセリフに心動かされたことを今でも覚えている。私の「春と日記」のとりとめのない話だ。庭にある白梅の蕾もぼつぼつと赤味を帯びてきた。小さな命の色だ。まるで光の春を探っているかのように愛らしい。こんな小さな発見も記しておく。（都）

表紙の写真



「春雪の彩」

第34回ふくしま緑の写真コンクール
銀賞
受賞者 鈴木彦三さん(福島市)
撮影場所：福島市

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林研究・整備機構福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

(福島市中町五番一八号県林業会館内)

水戸印刷株式会社

発行人 発行

（定価 一〇〇円）

お知らせコーナー

第34回ふくしま緑の写真コンクール
受賞者決定

緑の素晴らしさ、大切さを広めていくため、「緑の百景」を中心に豊かな緑を題材とする「第34回ふくしま緑の写真コンクール」の受賞者が決定されました。

特選及び金賞の受賞者は、次のとおりです。詳しくは、福島県森林・林業・緑化協会のホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

賞	氏名	住所	テーマ
特選	矢館 実也	伊達市	木陰での至福
	歌川 敏美	福島市	旅するアサギマダラ
金賞	涌井 弘亘	福島市	緑樹に輝く虹
	久能まち子	福島市	もぐもぐタイム
	佐藤 幸雄	郡山市	鎮守の森の檜枝岐歌舞伎
	森藤 哲良	伊達市	にわか雨



特選「木陰での至福」

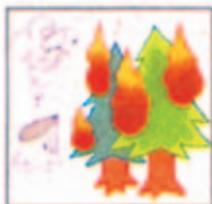
福島県きのこセミナー参加者募集

県内のきのこ栽培者、関係団体、指導機関等を対象に、きのこに関する栽培技術及び最新情報を提供する目的で「福島県きのこセミナー」を開催しますので参加者を募集します。

- 開催日時** 令和2年2月21日(金) 13:00~16:40
- 開催場所** 福島県農業総合センター 多目的ホール
福島県郡山市日和田町高倉字下中道116
- 内容**
基調講演「循環型林業への取組」
講演者：新潟県ゆきぐに森林組合
講演「今だから言える。原木しいたけの大切さ！」
講演者：(有)なかのきのこ園 ほか
- 対象者** 県内在住のきのこ生産者、関係団体、指導機関等
- 参加費** 無料
- 申込方法及びお問い合わせ先**
令和2年2月13日(木)までに下記へお電話下さい。
(公社)福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター
福島県郡山市安積町成田字西島坂7-2
電話 024-947-2188 FAX 024-947-6926

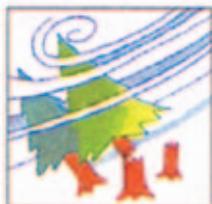
備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



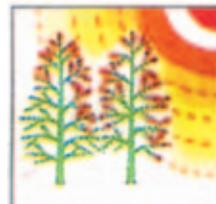
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
- または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載

- ・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- ・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- ・材積集計機能を標準で搭載



新開発のスタッドローラ (オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易



For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>

(北関東支店) 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
(支 店) 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマンCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL (巣処理用スプレー)
ハチノックS (携帯用スプレー)



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ TEL. 03(6740)7777
平日 9:00~17:00 (土・日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店
(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1